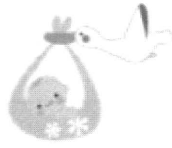


頭部画像評価シート

No.			
氏名	生年月日	撮像年月日	
	年齢 y m	(修正月齢 y m)	
頭部MRI所見シート			
		右	左
テ ン ト 上	委縮	0 1 2 3 部位()	0 1 2 3 部位()
	多小脳回	0 1 2 部位()	0 1 2 部位()
		側面部中心 Y N ・ 左右対称性 Y N	
	白質容量低下	0 1 2 3 部位()	0 1 2 3 部位()
	白質病変		
	囊胞性変化	有(部位 P F T) 無	有(部位 P F T) 無
	分布パターン	Bilateral/Multifocal	Extensive/Confluent Diffuse
	脳室周囲	変化あり 変化なし	
	深部白質	変化あり 変化なし	
	皮質下白質	変化あり 変化なし	
	主な病変	脳室周囲 深部白質	弓状線維 傾向なし
	病変の分布	右 F P O T	左 F P O T
	最大病変	右 F P O T	左 F P O T
	病巣数	10未満 10以上20未満	20以上
	左右対称性	Y N	
	サイズの変化	大 小	
	髄鞘化遅延	0 1 2	
	側頭葉前部		
	白質病変	右 あり なし	左 あり なし
	下角の拡大	右 あり なし	左 あり なし
小脳	低形成 半球	右 あり なし	左 あり なし
	低形成 虫部	あり なし	
そのほかの所見・コメント等			
		部 位 表 示	F 前頭部 0:なし P 頭頂部 1:疑い O 後頭部 2:明らか T 側頭部 3:高度

妊婦への感染予防啓発資料



妊娠中のサイトメガロウイルス感染予防について

神戸大学医学部附属病院産科婦人科 2010/03/08

サイトメガロウイルスとは

サイトメガロウイルス(CMV)による感染症は、世界中で非常によくみられる感染症であり、どの年齢の人にも感染する可能性があります。

いったん、サイトメガロウイルスが体内に入れば、ウイルスは一生体内にとどまります。そのため、血液で抗体の検査をすると、成人の60～90%は過去にCMV感染症にかかったことがあるといわれます。サイトメガロウイルスは、尿、唾液、乳汁、血液、涙、精液、陰分泌液といった、種々の体液中に存在します。健康な人がサイトメガロウイルスに感染した場合、ほとんど症状がないことが多いのですが、サイトメガロウイルスは妊婦から胎児へ移行することが知られています。

母体を通して胎児にサイトメガロウイルスが感染した場合、児は先天性サイトメガロウイルス感染症となりますが、大部分の児では無症状で出生します。一部の児には出生時から、また無症状で出生しても遅れて、難聴、視力障害、精神発達遅延、肺、肝臓、脾臓の問題、発育障害などの健康問題が発生することがあります。胎児感染以外に、分娩時、授乳、輸血、感染した他の子供との接触などによって、サイトメガロウイルスに感染することがありますが、生後に感染した幼児や子供にはほとんど症状は無く健康問題は発生しません。



サイトメガロウイルス感染時の症状

健康な人がサイトメガロウイルスに感染した場合、ほとんど症状がないことが多く、感染したことに気付かないことさえあります。中には少し具合が悪くなる人もいます。

サイトメガロウイルス感染時の症状としては、発熱、のどの痛み、全身倦怠感、リンパ節の腫れなどがあります。これらは他の病気の症状とよく似ているので、サイトメガロウイルスによる感染と気付かないこともあります。時に発熱を伴うサイトメガロウイルス単核症やサイトメガロウイルス性急性肝炎を起こす場合もあります。

サイトメガロウイルスの感染経路

- 感染者との密接な接触(キス、性交、唾液や尿がついた手で目、鼻、口を触った場合など)
- 感染者の母乳
- 母から胎児への感染
- 輸血や臓器移植

妊娠中にサイトメガロウイルスに感染する原因で最も多いのは、**小さなお子さんの唾液や尿に触れることによるものです。**

サイトメガロウイルスの胎児感染(図1)

日本では、母となり得る年齢の女性の中の約30%はサイトメガロウイルス感染にかかった既往がない(未感染)といわれています。この未感染妊婦のうち、1～4%が、妊娠中に初めてサイトメガロウイルスに感染します(妊娠中の初感染)。しかし、大部分では症状ができません。妊娠中の初感染では、33～40%の割合でサイトメガロウイルスが胎児に感染します(先天性サイトメガロウイルス感染症)。妊娠前にサイトメガロウイルスに初感染した女性でも、ウイルスは胎児に移行することがありますが、その頻度は低いです。先天性サイトメガロウイルス感染症の大部分の児は無症状ですが、出生後または遅れて健康問題が発生することがあります(難聴、視力障害、精神発達遅延、肺、肝臓、脾臓の問題、成長の問題)。難聴や視力障害は生後数か月や何年後に発生します。出生時に症状をもった児の約90%は、生後数年以内に健康問題が発生します(難聴、視力障害、精神発達遅延)。出生時に症状がなかった児の約10～15%に、後に聴力や精神面で種々の程度で問題が発生することがあります。

妊娠中のサイトメガロウイルスの感染予防方法

現在、サイトメガロウイルス感染を予防できるワクチンはありません。また、完全に感染のリスクを避ける方法もありません。しかし、サイトメガロウイルス感染の可能性を減少させるには、以下のような手段があります。

■ **頻回に、手洗いをしましょう。**

石鹸と流水で 15 から 20 秒間、よく手を洗うようにしましょう。
特に おしめを替えた後、子供の唾液や鼻水に触れた後には必ず。

■ **子供の唾液、鼻水との接触の機会を減らしましょう。**

5-6 歳未満の子供の頬や唇にキスをすることはやめましょう。その代わりに、頭にキスをしたり、抱きしめたりしてあげましょう。
よだれのついた子供の手やおもちゃが口に入らないようにしましょう。



■ **小さな子供と食べ物や飲み物、お箸やフォーク、スプーンを共有しないようにしましょう。**

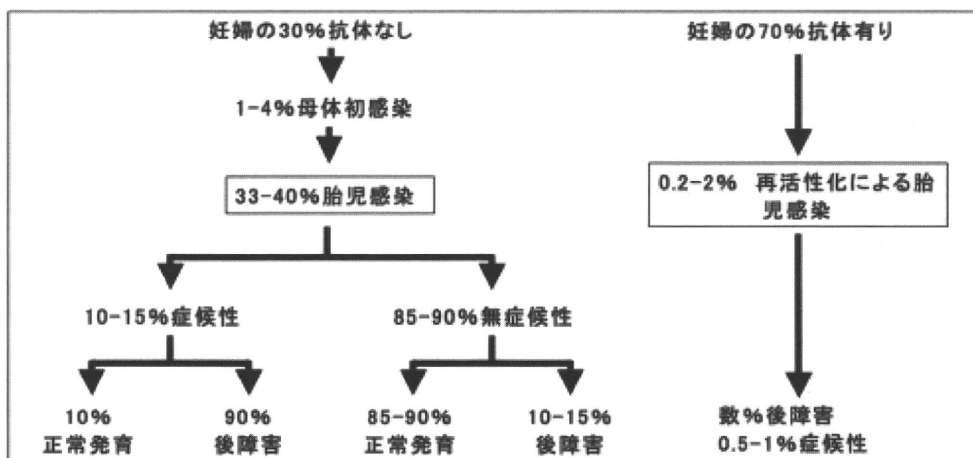
■ 特に保育園などで働いている場合、サイトメガロウイルスに感染するリスクをできるだけ避けましょう。

先天性サイトメガロウイルス感染症児を出産した場合、次の子供も先天性サイトメガロウイルス感染症になるのでしょうか？

先天性サイトメガロウイルス感染症の子供を持っているほとんどすべての妊婦は、すでに免疫ができていますので、新しくサイトメガロウイルスに感染することはありません。1人以上の児が先天性サイトメガロウイルス感染症にかかったという報告がありますが、稀なことです。



図1 サイトメガロウイルス母子感染と後障害のリスク



難聴引き起こすサイトメガロウイルス 妊婦の3割抗体なし

胎児の時に感染すると難聴や脳に障害が起きる危険性のある「サイトメガロウイルス」――**①**に、新生児300人に1人の割合で感染していることがわかった。厚生労働省の研究班が新生児2万人以上を対象に国内初の大規模な調査をした。抗体のない妊婦が感染すると胎児に感染することがある。通常は幼児期に感染し抗体があるが、最近では抗体のない妊婦が3人に1人程度と増えている。胎児の感染も増加する可能性がある。

研究班は全国25施設で生まれた新生児2万1272人（2010年7月末時点）を調査。尿を採取してウイルスの有無を検査し、66人が陽性と判明した。幼児期に感染しても症状が出ず、胎内感染でも多くは発症しないが、うち15人に難聴や脳の発達異常など典型的な症状が見られた。

今回の調査で陽性だった新生児のうち47人を調べたところ、81人は上に兄弟がいて多くから同じウイルス株が見つかった。自然に感染した上の子から、妊娠中の母親が初感染し、それが

厚労省調査 新生児300人に1人感染

胎児に感染したと推測されるといふ。この抗体を持っていない妊婦の割合は年々低下している。1986年の国内での調査報告では96%が抗体を持っていたが、今回調査した妊婦4806人のうち、確実に抗体があるのは96%だった。衛生環境の改善などで幼児期の感染が減ったためとみられる。

研究班は先天性感染児への治療ガイドラインも検討。抗ウイルス薬を6週間投与することで改善する例もあり、難聴も早期に発見し補聴器をつけるとで言語発達への影響を少なくできるという。

研究班代表の古谷野伸・旭川医科大学講師は、感染したばかりの乳幼児の尿や唾液にはウイルスが多く含まれているため、妊婦は抱ひつを取りかえた後には手洗いし、口移しやキスなどを避けるよう呼びかけている。

古谷野さんは「これまで難聴などの障害があっても原因がわからず、遺伝的な病気で悩んでいた家族もいたが、サイトメガロウイルスが原因の場合も多い」と指摘する。（香取啓介）

① サイトメガロウイルス

ヘルペスウイルスの一種。尿や唾液、精液、母乳などを介してうつる。多くは幼児期に感染するが、通常一生症状はでない。妊婦になって初感染したり、ウイルスが再活性化したりした場合、胎盤を通して胎児に感染する。新生児に低出生体重、難聴などの症状が出る場合がある。



VIII. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Inoue N	Chapter84: Human herpesvirus 5 (Cytomegalovirus)	D. Liu	Molecular Detection of human viral pathogens	Taylor & Francis CRC Press	NY	2011	949-62
Maruo T, Ohara N, Yoshida S, Nakabayashi K, Xu Q, Chen W, Matsuo H, Yamada H	Progesterone and progesterone receptor modulators in uterine myoma cell growth: its implication in women's health	Hedon B, Mettler L, Tinneberg H.-R.	Proceedings of the IFFS 20th World Congress on Fertility & Sterility 2010	LUKON-Verlagsgesellschaft mbH	Munich, Germany	2010	115-118
泰地秀信	小児急性中耳炎診療ガイドライン 2009年版	山口徹、他	今日の治療指針 2011	医学書院	東京	2011	1893-1897
岡 明	脳室内出血、脳室周囲白質軟化症	山口徹、北原光夫、福井次矢	今日の治療指針	今日の治療指針	東京	2010	1147-1148
岡 明	脳の発達と疾患	渡辺とよ子	新生児医療	中山書店	東京	2010	92-95
泰地秀信	中耳奇形	小川郁	よくわかる聴覚障害・難聴と耳鳴のすべて	永井書店	東京	2010	124-129
泰地秀信	中耳炎、副鼻腔炎	国立成育医療研究センター	ナースのための小児感染症—予防と対策—	中山書店	東京	2010	63-67
井上直樹	各論 4・3 章 先天性サイトメガロウイルス感染児の診断と疫学	川名尚・小島俊行	母子感染	金原出版	東京	印刷中	
山田秀人	hCG-hMG療法	和田 攻、南 裕子、小峰光博	看護大辞典 第2版	医学書院	東京	2010	61
山田秀人	胎児水腫	金澤一郎、永井良三	今日の診断指針 第6版	医学書院	東京	2010	1773-1775
吉田茂樹、山田秀人	産婦人科救急に必要の基本手技—交換輸血	松浦三男	産婦人科救急のすべて	永井書店	大阪	2010	91-95
山田秀人	CMV 胎内感染の制御:治療	ヘルペス感染症研究会	第16回ヘルペス感染症フォーラム	エムディーエス株式会社	東京	2010	44-46

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中林幸士、 山田秀人	サイロスティムリン	家入蒼生夫	2010年増刊号、広 範囲 血液・尿化学 検査、免疫学的検査 (第7版)－その数 値をどう読むかー	日本臨床社	大阪	2010	273-276
森田宏紀、 山田秀人	ヒト絨毛性ゴナドトロ ピン (hCG) およびサブ ユニット	家入蒼生夫	2010年増刊号、広 範囲 血液・尿化学 検査、免疫学的検査 (第7版)－その数 値をどう読むかー	日本臨床社	大阪	2010	488-492
森田宏紀、 山田秀人	妊娠特異β1糖蛋白 (SP-1)	家入蒼生夫	2010年増刊号、広 範囲 血液・尿化学 検査、免疫学的検査 (第7版)－その数 値をどう読むかー	日本臨床社	大阪	2010	775-777
山田秀人、 森實真由美、 園山綾子、 森岡一朗、 松尾雅文、	妊婦のサイトメガロウ イルス感染	周産期医学 編集委員会	周産期医学 周産 期診療指針 2010	東京医学社	東京	2010	259-263
泰地秀信	小児急性中耳炎診療ガ イドライン 2009年版	山口徹、他	今日の治療指針 2010	医学書院	東京	2010	1831- 1835
山田秀人	胎児・新生児と酸素	酸素ダイナ ミクス研究 会	からだと酸素の事 典	朝倉書店	東京	2009	256-258
山田秀人	感染症二(トキソプラズ マ、風疹、サイトメガロ ウイルス、単純ヘルペ ス)	平野秀人	「助産師外来に必 須のエビデンス& テクニック 妊婦 健康診査パーフェ クトマニュアル」ペ リネイタルケア 2010年新春増刊号	メディカ出 版	大阪	2009	47-51
泰地秀信	中等度難聴確定診断の ためのOAE・気導ABRと ASSR	加我君孝	小児の中等度難聴 ハンドブック	金原出版	東京	2009	112-116
泰地秀信	聴力検査	日本小児耳 鼻咽喉科学 会	小児耳鼻咽喉科診 療指針	金原出版	東京	2009	73-77
岡 明	熱性痙攣、てんかん発 作・痙攣重積状態、急性 脳症、脳炎・髄膜炎、片 頭痛	五十嵐隆	目で見る小児救急	文光堂	東京	2009	167-175
岡 明	神経線維腫症 (vonRecklinghausen病)	「小児内 科」「小児 外科」編集 委員会	小児疾患診療のた めの病態生理 2	東京医学社	東京	2009	622-626

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
岡 明	急性散在性脳脊髄炎	「小児内科」「小児外科」編集委員会	小児疾患診療のための病態生理2	東京医学社	東京	2009	697-700
岡 明	発達の標準	桃井真理子	子どもの成長と発達の障害	永井書店	東京	2009	33-52
岡 明	Parinaud 症候群	平岩幹男	小児の症候群	診断と治療社	東京	2009	S160
山田秀人	羊水過多・過少	山口 徹, 北原光夫, 福井次矢	今日の治療指針 2008 版	医学書院	東京	2008	950-951
山田秀人、北海道トキソプラズマ研究会、免疫グロブリン胎児医療研究会	胎児医療の現状と将来— 母子感染治療と予防における新たな試み	松浦三男	周産期診療プラクティス, 産婦人科治療第 96 巻増刊号	永井書店	大阪	2008	23-30
山田秀人	妊娠, 授乳.	藤枝憲二, 伊藤喜久	ホルモンの病態異常と臨床検査, 臨床検査 2008 年増刊号 52 巻 11 号	医学書院	東京	2008	1351-1354
山田秀人	血液型不適合妊娠	周産期医学編集委員会	周産期臨床検査のポイント産科編, 周産期医学第 38 巻増刊号	東京医学社	東京	2008	240-243
山田俊, 山田秀人, 水上尚典	絨毛膜羊膜炎の診断	岩下光利	切迫早産の診断と治療	メジカルビュー社	東京	2008	98-109
錫谷達夫	先天性サイトメガロウイルス感染と聴覚障害	ヘルペス感染症研究会	第 14 回ヘルペス感染症フォーラム	株式会社マツキャン・ヘルスケア	東京	2008	95-98
泰地秀信	乳幼児難聴の取り扱いについて	森山寛	日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会テキスト		東京	2008	112-116
藤原成悦	動物モデル	清水則夫, 柳井秀雄	EB ウイルス	診断と治療社	東京	2008	88-92

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nagamori T, Koyano S, Inoue N, Yamada H, Oshima M, Minematsu T, Fujieda K.	Single cytomegalovirus strain associated with fetal loss and then congenital infection of a subsequent child born to the same mother.	<i>J Clin Virol</i>	49	134-136	2010
Suzuki R, Ihira M, Enomoto Y, Yano H, Maruyama F, Emi N, Asano Y, Yoshikawa T.	Heat denaturation increases the sensitivity of the cytomegalovirus loop-mediated isothermal amplification method	<i>Microbio Immunol</i>	54	466-70	2010
Takahashi K, Oka A, Mizuguchi M, Saitoh M, Takita J, Sato A, Mimaki M, Kato M, Ogawa S, Igarashi T	Interstitial deletion of 13q14.13-q32.3 presenting with Arima syndrome and bilateral retinoblastoma	<i>Brain Dev</i>	In press		
Tobe RG, Mori R, Shinozuka N, Kubo T, Itabashi K.	Birthweight discordance, risk factors and its impact on perinatal mortality among Japanese twins: data from a national project during 2001-2005. Birthweight discordance, risk factors and its impact on perinatal mortality among Japanese twins: data from a national project during 2001-2005.	<i>Twin Res Hum Genet.</i>	5	490-494	2010
Iwata S, Yano S, Ito Y, Ushijima Y, Gotoh K, Kawada J, Fujiwara S, Sugimoto K, Isobe Y, Nishiyama Y, Kimura H.	Bortezomib Induces Apoptosis in T Lymphoma Cells and Natural Killer Lymphoma Cells Independent of Epstein-Barr Virus Infection.	<i>Int J Cancer</i>	In press		
Arai A, Imadome K, Fujiwara S, Miura O.	Autoimmune hemolytic anemia accompanied by reactivation of an Epstein-Barr virus infection with suppressed CTL response to EBV-infected cells in an elderly man.	<i>Inter Med</i>	49	325-329	2010
Tagawa M, Minematsu T, Masuzaki H, Ishimaru T, Moriuchi H.	Seroepidemiological survey of cytomegalovirus infection among pregnant women in Nagasaki, Japan	<i>Pediatr Int</i>	52	459-462	2010
Tagawa M, Tanaka H, Moriuchi M, Moriuchi H.	Retrospective diagnosis of congenital cytomegalovirus infection at a school for the deaf by using preserved	<i>J Pediatr</i>	155 (5)	749-751	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishibashi K, Tokumoto T, Shirakawa H, Hashimoto K, Ikuta K, Kushida N, Yanagida T, Shishido K, Aikawa K, Toma H, Inoue N, Yamaguchi O, Tanabe K, Suzutani T.	The lack of antibodies against the AD2 epitope of cytomegalovirus (CMV) glycoprotein B (gB) is associated with CMV disease after renal transplantation in recipients having gH serotypes same as their donors.	Transplant Infectious Disease	e-pub		2010 Aug 30
Shoji K, Ito N, Ito Y, Inoue N, Adachi S, Fujimaru T, Nakamura T, Nishina S, Azuma N, Saitoh A	Is a six-week course of ganciclovir therapy effective for chorioretinitis in infants with congenital cytomegalovirus infection?	J. Pediatr.	157	331-3	2010
Imamura T, Suzutani T, Ogawa H, Asano K, Momoi N, Ikuta K, Inoue N, Hosoya M	Oral valganciclovir treatment for congenital cytomegalovirus infection in a five month old girl with progressive hearing loss.	Pediatr. International	In press		
Kashiwagi Y, Nakajima J, Ishida Y, Nishimata S, Kawashima H, Miyajima T, Takekuma K, Hoshika A, Inoue N	Prolonged valganciclovir therapy for congenital cytomegalovirus infection	J. Infect. Chemo.	In press		
Yamada T, Matsuda T, Kudo M, Yamada T, Moriwaki M, Nishi S, Ebina Y, Yamada H, Kato H, Ito T, Wake N, Sakuragi N, Minakami H	Complete hydatidiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperminjection	J Obstet Gynaecol Res	34	121-124	2008
Morikawa M, Yamada T, Yamada T, Cho K, Yamada H, Sakuragi N, Minakami H	Pregnancy outcome of women who developed proteinuria in the absence of hypertension after mid-gestation	J Perinat Med	36	419-424	2008
Ishibashi K, Tokumoto T, Shirakawa H, Hashimoto K, Ikuta K, Kushida N, Yanagida T, Shishido K, Aikawa K, Toma H, Inoue N, Yamaguchi O, Tanabe K, Suzutani T	The lack of antibodies against the AD2 epitope of cytomegalovirus (CMV) glycoprotein B (gB) is associated with CMV disease after renal transplantation in recipients having gH serotypes same as their donors.	Transplant Infectious Disease	e-pub		2010 Aug 30

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Koyano S, Inoue N, Nagamori T, Yan H, Asanuma H, Yagyu K, Osaki M, Seiwa C, Fujieda K.	Dried umbilical cords in the retrospective diagnosis of congenital cytomegalovirus infection as a cause of developmental delays.	Clin Infect Dis	48	e93-95	2009
Nishikawa A, Yamada H, Yamamoto T, Mizue Y, Akashi Y, Hayashi T, Nihei T, Nishiwaki M, Nishihira J.	A case of congenital toxoplasmosis whose mother demonstrated serum low IgG avidity and positive tests for multiplex-nested PCR in the amniotic fluid.	J Obstet Gynaecol Res	35	372-378	2009
Yamada H, Atsumi T, Kobashi G, Ota C, Kato EH, Tsuruga N, Ohta K, Yasuda S, Koike T, Minakami H.	Antiphospholipid antibodies increase the risk of pregnancy-induced hypertension and adverse pregnancy outcomes.	J Reprod Immunol	79	188-195	2009
Sata F, Toya S, Yamada H, Suzuki K, Saijo Y, Yamazaki A, Minakami H, Kishi R.	Proinflammatory cytokine polymorphisms and the risk of preterm birth and low birth weight in a Japanese population.	Mol Hum Reprod	15	121-130	2009
Shimada S, Yamada H, Hoshi N, Kobashi G, Okuyama K, Hanatani K, Fujimoto S.	Specific ultrasound findings associated with fetal chromosome abnormality.	Congenit Anom (Kyoto)	49	61-65	2009
Shimada S, Takeda M, Nishihira J, Kaneuchi M, Sakuragi N, Minakami H, Yamada H.	A high dose of intravenous immunoglobulin increases CD94 expression on natural killer cells in women with recurrent spontaneous abortion.	Am J Reprod Immunol	62	301-307	2009
Yamada H, Atsumi T, Amengual O, Koike T, Furuta I, Ohta K, Kobashi G.	Anti- $\beta 2$ glycoprotein-I antibody increases the risk of pregnancy-induced hypertension: a case-control study.	J Reprod Immunol	84	95-99	2010
N Inoue.	Chapter 36 Cytomegalovirus, <i>In</i> Molecular Detection of human viral pathogens.	(Ed) D. Liu, in Taylor & Francis CRC Press		in press.	
Imadome K, Shimizu N, Yajima M, Watanabe K, Nakamura H, Takeuchi H, Fujiwara S.	CD40 signaling activated by Epstein-Barr virus promotes cell survival and proliferation in gastric carcinoma-derived human epithelial cells.	Microbes Infect		in press	

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Abe Y, Oka A, Mizuguchi M, Igarashi T, Ishikawa S, Aburatani H, Yokoyama S, Asahara H, Nagao K, Yamada M, Miyashita T.	EYA4, deleted in a case with middle interhemispheric variant of holoprosencephaly, interacts with SIX3 both physically and functionally.	Hum Mutat	30	e946-955 0	2009
Kato M, Takita J, Takahashi K, Mimaki M, Chen Y, Koh K, Ida K, Oka A, Mizuguchi M, Ogawa S, Igarashi T.	Hepatoblastoma in a patient with Sotos syndrome.	J Pediatr	155	937-939	2009
Ishibashi K, Tokumoto T, Shirakawa H, Hashimoto K, Kushida N, Yanagida T, Shishido K, Aikawa K, Yamaguchi O, Toma H, Tanabe K, Suzutani T.	Association between antibody response against cytomegalovirus strain-specific glycoprotein H epitopes and HLA-DR.	Microbiol Immunol	53	412-416	2009
Tagawa M, Tanaka H, Moriuchi M, Moriuchi H.	Retrospective diagnosis of congenital cytomegalovirus infection at a school for the deaf by using preserved dried umbilical cord.	J Pediatr	155	749-751	2009
Yan H, Koyano S, Inami Y, Yamamoto Y, Suzutani S, Mizuguchi M, Ushijima H, Kurane I, Inoue N.	Genetic linkage among human cytomegalovirus glycoprotein N (gN) and gO genes, with evidence for recombination from congenitally and post-natally infected Japanese infants.	J Gen Virol	89	2275-2279	2008
Ishibashi K, Tokumoto T, Shirakawa H, Hashimoto K, Kushida N, Yanagida T, Shishido K, Aikawa K, Yamaguchi O, Toma H, Tanabe K, Suzutani T.	Strain-specific seroepidemiology and reinfection of cytomegalovirus.	Microbes Infect	10	1363-1369	2008
Yan H, Koyano S, Inami Y, Yamamoto Y, Suzutani T, Mizuguchi M, Ushijima H, Kurane I, Inoue N.	Genetic variations in the gB, UL144 and UL149 genes of human cytomegalovirus strains collected from congenitally and postnatally infected Japanese children.	Arch Virol	153	667-674	2008
Fukushima E, Ishibashi K, Kaneko H, Nishimura H, Inoue N, Tokumoto T, Tanabe K, Ishioka K, Ogawa H, Suzutani T.	Identification of a highly conserved region in the human cytomegalovirus glycoprotein H gene and design of molecular diagnostic methods targeting the region.	J Virol Methods	151	55-60	2008

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yajima M, Imadome K, Nakagawa A, Watanabe S, Terashima K, Nakamura H, Ito M, Shimizu N, Honda M, Yamamoto N, Fujiwara S	A new humanized mouse model of EBV infection reproducing persistent infection, lymphoproliferative disorder, and cell-mediated and humoral immune responses.	J Infect Dis	198	673-682	2008
Nakamura H, Ishii C, Suehiro M, Iguchi A, Kuroda K, Shimizu K, Shimizu N, Imadome K, Yajima M, Fujiwara S	The Latent Membrane Protein 1 (LMP1) Encoded by Epstein-Barr Virus Induces Expression of the Putative Oncogene Bcl-3 Through Activation of the Nuclear Factor- κ B.	Virus Research	131	170-179	2008
Abe Y, Nagasawa T, Monma C, Oka A	Infant botulism due to Clostridium butyricum type E toxin.	Pediatr Neurol	38	55-57	2008
Saito Y, Toyoshima M, Oka A, Zhuo L, Moriwaki SI, Yamamoto O, Kanzaki S, Hanaki KI, Ninomiya H, Nanba E, Kondo A, Maegaki Y, Ohno K.	Mental retardation, spasticity, basal ganglia calcification, cerebral white matter lesions, multiple endocrine defects, telangiectasia and atrophic skin: A new syndrome?	Brain Dev	30	221-225	2008
Takano K, Shimono M, Shiota N, Kato A, Tomioka S, Oka A, Ohno K, Sathou H.	Infantile neuronal ceroid lipofuscinosis: The first reported case in Japan diagnosed by palmitoyl-protein thioesterase enzyme activity deficiency.	Brain Dev	30	370-373	2008
中村友彦、久保隆彦	シンポジウムのまとめ、第28回周産期学シンポジウム	メディカルビュー社		67-69	2010
山口晃史、久野道、堀谷まどか、渡邊典芳、久保隆彦、加藤達夫、村島温子	妊娠中のインフルエンザワクチン接種の安全性	感染症学雑誌	84	449-453	2010
久保隆彦、北西あすか、江川真希子、高橋宏典	産科医療と電子カルテの導入—その問題点と将来—	産婦人科治療	100	43-46	2010
久保隆彦	季節性あるいは新型インフルエンザ	ペリネイタルケア	373	307-313	2010
久保隆彦	妊産婦死亡	産科と婦人科	77	137-140	2010
種元智洋、久保隆彦	SGAの主な発症要因—胎盤・臍帯の異常—	周産期医学	40	165-169	2010

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
浅野仁寛、藤森敬也	「先天性サイトメガロウイルス感染症のスクリーニング」	産婦人科治療	Vol.101 no.5	555-562.	2011/11
泰地秀信、守本倫子、松永達雄	Auditory neuropathy spectrum disorderの乳幼児例における ASSR 閾値	Audiology Japan	53	76-83	2010
泰地秀信	耳音響放射	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 82 (5「耳鼻咽喉科・頭頸部外科の検査法マニュアル」)	82	49-55	2010
泰地 秀信	幼児の伝音難聴はどうやって診断するのか？	JOHNS	26	1023-1027	2010
山田秀人、森岡一朗、森實真由美、園山綾子、谷村憲司、松尾希世美、松尾雅文、峰松俊夫、古谷野伸、井上直樹	先天性サイトメガロウイルス感染症の胎児・新生児治療	産婦人科治療	102	131-138	2011
山田秀人、森岡一朗、森實真由美、園山綾子、谷村憲司、松尾希世美、松尾雅文、峰松俊夫、井上直樹、古谷野伸	サイトメガロウイルス 特集:母児感染が問題となる感染症	周産期医学			印刷中
古谷野伸、井上直樹、長森恒久、藤枝憲二	先天性サイトメガロウイルス感染マスキューニングについて	マスキューニング学会誌			印刷中
古谷野伸、井上直樹、長森恒久他	先天性サイトメガロウイルス感染マスキューニングの意義	北海道小児保健研究会誌		36-40	2010
泰地秀信、守本倫子、南修司郎	新生児聴覚スクリーニング偽陰性例についての検討	小児耳鼻咽喉科	in press		
土居美智子、森内浩幸	今後期待される薬物療法 新生児サイトメガロウイルス感染症の治療	周産期医学	39 (12)	1746-1750	2009
佐藤尚、永山善久、山崎肇、森内浩幸	免疫異常のない非低出生体重児に発症した後天性サイトメガロウイルス腸炎	日本周産期・新生児医学雑誌	45 (3)	32-36	2009
岡 明	Discordant twin の神経予後	産婦人科の実際	58	73-79	2009
森内浩幸	中枢神経障害患者における先天性CMV感染の後方視的診断	NEUROINFECTION	13 (1)	52-56	2008

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
水上尚典, 山田俊, 森川守, 島田茂樹, 山田崇弘, 山田秀人, 長和俊	症例から見た妊娠高血圧症行軍の病態と その管理	日本周産 期・新生児医 学会雑誌	44	2008	799-803
森川守, 山田俊, 山田崇弘, 小山貴弘, 山村満恵, 長和俊, 山田秀人, 水上尚典	双胎妊娠において Late Preterm Birth (LPB)は異常分娩か?	日本周産 期・新生児医 学会雑誌	44	2008	1074- 1077
山田 秀人	抗リン脂質抗体と産科異常との関連	日本妊娠高 血圧学会雜 誌	16	2008	65-70
久保隆彦	サイトメガロウイルス	産科と婦人 科	75	1596-1599	2008
岡 明	未熟な脳はどのように成長・発達するの か?	Neonatal Care	21	10 - 15	2008
岡 明	環境汚染（水銀、ダイオキシン、ポリ塩化 ビフェニール）による脳障害	周産期医学	38	705-708	2008
森内昌子, 森内浩幸	ウイルス性母子感染症	化学療法 の領域	24	1506-1511	2008
田川正人, 森内昌子 森内浩幸	小児耳鼻咽喉科疾患治療の最前線：サイト メガロ難聴	小児科診療	71	1711-1716	2008
錫谷達夫	先天性サイトメガロウイルス感染による 難聴	医学のあゆ み	227	1086-1087	2008
錫谷達夫	先天性サイトメガロウイルス感染と難聴	耳鼻咽喉科 学会専門医 通信	96	14-15	2008
山田秀人	TORCH 症候群 18. 産科感染症の管理と治 療 D. 産科疾患の診断・治療・管理（研修 コーナー）	日産婦誌	60(6)	132-136	2008
山田秀人	先天性サイトメガロウイルス感染症に対 する免疫グロブリン療法	日産婦誌	60(9)	288-295	2008
山田秀人	先天性サイトメガロウイルス感染症と免 疫グロブリン療法	日産婦誌	97(5)	485-493	2008
山田秀人	胎児医療の現状と将来—母子感染治療と 予防における新たな試み, 周産期診療プラ クティス	産婦人科治 療	96	23-30	2008
泰地 秀信	純音聴力検査とマスキング	JOHNS	24	709-713	2008

平成20～22年度 総合研究報告書

発行：平成23年3月28日

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

全新生児を対象とした先天性サイトメガロウイルス（CMV）

感染スクリーニング体制の構築に向けたパイロット調査と感染

児臨床像の解析エビデンスに基づく治療指針の基盤策定

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

旭川医科大学小児科学講座 電話：0166-68-2481

